

# あむーる

島根県立松江北高等学校  
第3学年 八幡英語通信  
2016年6月13日発行  
第8号

## 先輩は語る <8>

No.8



松江北高の皆さんへ

東京大学 理科類 錦 織 浩 志

僕は今年念願の東京大学へ合格した。お世話になった先生方、両親、そして友達、ありきたりな表現ですが本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

さて、有名私立高で中高一貫教育を受け、部活を辞め、塾へ入り浸り勉強した合格者の多いこの大学に、なんで僕が合格できたのか。それはズバリ北高伝統の教育システムが素晴らしいからだ!!僕は正直なところ学校以外の問題集や通信添削はしてなかったし、むしろできなかった。だけど、数副の予習や数正の宿題を始めとしてRの予習や毎週の週末課題はほとんどやってきた。つまり、学校の課題をただで十二分に力をつけて、成果を上げることができるのだ。北高には、全国を見渡しても見つからないほど素晴らしい教育システムが確立されているのだ!!北高にいる間は分からなかったが、こっちに来てから他校の友達と話す中で北高のすごさを気づかされたのだ!!だからみんなには最高の環境で北高の先生の指導をひたすら信じて勉強してほしい!!

でも「勉強せんといけんのは分かるとる。でもできん…」と僕と同じように多くの人が悩むだろう。ぶっちゃけヤル気が学園祭後から受験当日まで続く奴なんて、いるワケナイ。誰にでもスランプは存在するんだ。気分の乗らないときだってある。勝負の分かれ目は、そんなときにも自分に厳しくするアクションを起こすヤル気を搾り出せるか、そして仲間と苦しさを分け合えるかどうかだと思う。

まずはヤル気をだす方法。これはいろいろ試してみて、自分に合う方法を見つけるしかない。ちょっとぼくの方法を紹介すると、

①朝学校で勉強する…習慣になってしまえばつらいことではなく、むしろ遅刻と無縁になれ、かなり集中できおススメ。同様に学校開放も積極的に活用して、勉強するしかない状況に自分を追い込んでしまおう。嫌でも勉強するよ。

②生きた目標、ライバルを見つける…これは別に片思いでもいい。偏差値とか点数よりずっといい!「あいつが勉強しとるけん俺も負けらんねえ」「あいつが休憩しとるけん今頑張ろう」とかいう気持ちになれば最高!!

③赤本を読む…決して問題編ではない。巻頭の大学紹介だ。案外写真とか、合格体験記とか、勉強のアドバイスとか載っていておススメ。たいていの大学は進路指導室にあるよ!!とこんな感じかな。やる気が出れば集中できて効率よく勉強できる!!

そして最後に、クラスの雰囲気。僕のいた8Rは最高だった!!学園祭でみんなが共通の目標であるペー

ジェント優勝を本気で目指した。その過程の中でクラスは本当にひとつになり、その雰囲気はいい意味でその後も続き、みんなで束になって本気でキツイ受験勉強に立ち向かった。

あいつがまだ頑張るとるけん俺も頑張らにゃあって。18:20に笑顔で「おつかれ~!!」って級友に言われたら疲れも半減でしょ!!ひとりでは妥協してしまうことでも、みんな一緒にやるなら頑張り抜ける。これが「受験は団体戦」の意味だと思う。

少し内容が受験生向けになってしまったが、1、2年も今が基礎を固めるとても大事なときだ。3年になってから少しでも楽をしたいなら、今の授業や課題をきっちりやって欲しい。センター試験もほとんどは1、2年でやったことだし、日々の積み重ねが後々大きな力になるんだ。

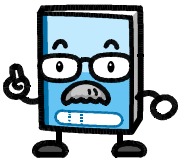
3年生、どうか部活や学園祭準備も必死になって欲しい。部活や学園祭で本気になれない奴は勉強にも本気にはなれない。高校でしかできない貴重な体験をし、その中で受験だけでなくこれからの人生に必要な忍耐力や気合いなどを身につけて欲しい。

最後に、僕の下手くそな文章を最後まで読んでくれた人、本当にありがとう。これからの高校生活が充実したものになり、目標を達成することを祈る!!

★北高に転動してきた1年目に英語を教えた生徒です。野球部の控え選手でしたが、ぐんぐん成績を伸ばしました。東京大学に合格して、しばらくしてからお母さんがお礼に学校にられました。顔を見てビックリです。私が教員になって初めて担任した(平田高校)生徒ではありませんか!?ずっと個人添削をやっていましたが、生徒はそんなことは一言も言いません。オイオイ、ちゃんと正体を名乗れよ、とお母さんに迫りました。「だって恥ずかしいんだもん…」とのこと。彼は大学院時代に化学論文集(英文)に自分の研究が発表され、活躍、会社に就職し研究生生活中です。



## 三つの「シ」



人生において何か大きなことを成し遂げようとする場合、**三つの「シ」**が必要になるという話を聞いたことがあります(出典不詳)。一つは、**志(こころざし)の「シ」**、二つには、**指導者の「シ」(師)**、三つ目には**豊かな感性を育てくれる詩の「シ」**です。

「志」が重要であることは、言うまでもないでしょう。「志」がなくては夢を追いかけることもできません。目標に向かって進むこともできないでしょう。しかし自分一人だけでいくら頑張っても、なかなか大きなことを成し遂げることは困難でしょう。未知なる世界に歩み出そうとするときには、やはり自分を導いてくれる良き指導者「師」が必要です。アドバイスをもらい、悪い所を直してもらい、励ましの言葉をかけてもらうことで、志の方向へまっすぐに進んでいくことができます。成功した人には、みなこの師に恵まれるという幸運がついてまわっているようです。私の場合は、小学校時代からよき師に恵まれていました。小学校5年生・6年生と読書感想文の指導を受け、こんな先生になりたいと強く思った担任の**故井塚忠**先生の存在。高校では**三島房夫**先生・**故大谷静夫**先生と二人の英語の師に恵まれかわいがってもらいました。そして大学では**安藤貞雄**先生・**山田政美**先生という日本でもトップクラスの碩学のご指導をいただくことができました。最後の「詩」は、人間性を高めるための「本」と考えたら分かりやすいでしょう。講演でもいいでしょう。教養を高めてくれることで、社会的にも尊敬を受け、周りの人達からも信頼され、多くの協力者を味方につける事が可能になります。また、人は優しさ・情操を忘れてはダメになってしまいます。そんな心を慰めてくれるものとして「詩」があるのでしょうか。高校時代はお金がないですから、**県一の北高図書館**を利用しましょう。どんな本が自分を高めてくれるかは、親切な司書・前田さんが相談に乗ってくれるはず。以上、**三つの「シ」**のお話でした。☺☺☺

★八幡のサイト「チーム八ちゃん」はコチラ→ <https://teamhacchan.wordpress.com/> 話題満載です。